

# テモの不使用についての 一考察

—中国語の母語干渉の観点から

陳 昭心

## ●要旨

**本**稿では、中国語母語話者のテモの不使用について、実際の事例を観察しながら、テモの原理自体を見直し、また、テモの理解上の困難点を検討した。日本語は前件に付くテモによって同じ後件を表すが、中国語はそれを後件に付く“也”によって表す。日中両言語の構文は異なるが、“也”の使用がテモの原理に繋がると言える。しかしその一方、中国語では、“也”を使用しないこともあるため、テモの不使用に関する盲点となりうる。また、中国語母語話者にとっては、日本語のテモの裏にある「期待の内容」を想定することに馴染みがない上、さらに期待の内容にテモを含む状況に出会った際に、いわゆる順接と逆接の判断を行うことは必ずしも容易とは言えない。

## ●キーワード

テモ、“如果/即使”、“也”、  
順接/逆接/譲歩、期待の内容

## ●ABSTRACT

This paper discussed the nonuse of *temo* of Chinese native speakers and its reasons, and reconsidered the principle of *temo*. Japanese expresses the same consequent by *temo* which an antecedent gets, but Chinese expresses it by *ye* which a consequent has. *Mo* of *temo* and *ye* have a similar function, but since *ye* may not be used because of politeness, the nonuse of *ye* can lead to the nonuse of *temo*. Besides, it is necessary to distinguish between concession and contradictory conjunction because it decides how to judge resultative/contradictory conjunction.

## ●KEY WORDS

*temo*, *ruguo/jishi*, *ye*, resultative/contradictory conjunction/concession, contents of the expectation

Nonuse of *temo*  
From the viewpoint of native  
language interference of Chinese  
JAUSHIN CHEN

## 1 はじめに

いわゆる日本語の条件表現には、順接を表すタラ／バ／トと逆接を表すテモがある<sup>[註1]</sup>。日本語教育でも、よくタラとテモは対立する論理関係として説明されている。例えば、「雨が降ったら、出かけません」（中国語訳“要是下雨的话，就不出去”）と「雨が降っても、出かけます」（“即使下雨也要出去”）が対立して導入されることが見られる。また、タラは“如果～”と訳され、「仮定条件」と説明されている。一方、テモは“即使～也～”と訳され、タラとは反対に、ある条件の下で当然起こると期待される事柄が起こらない場合に使用され、「逆接条件」と説明されている<sup>[註2]</sup>。

しかし、中国語の“如果～”と“即使～也～”はそれぞれ「仮定複文」と「讓歩複文」と名付けられる（劉・潘・故1991）が、それが順接と逆接にもあたるのであろうか。また、接続詞“如果／即使”や副詞“就／也”が省略されたり使用されなかったりすることがあり、上記のような説明が一応わかっているにもかかわらず、順接と逆接の判定が必ずしも日本語母語話者と一致するとは限らない。例えば、次のような場面では、なぜテモを使用する必要があるのかは理解しきれない。

- (1) (ホテルのホームページに)

以上價格若有變動、恕不再另行通知。(中国語バージョン)

以上紹介した値段はもし変われば、別に告知しません。

(日本語バージョン)

(白川2012、下線筆者)

- (2) (午後、友人とお茶を飲みながら、“現在喝茶、晚上睡得著嗎”と聞こうとして)

「お茶を飲むと、今夜眠れますか。」 (台湾)

- (3) (泡で出る洗顔料の詰め替え用に。中国語の説明付き)

この製品は「ダヴ クリーミー泡洗顔」専用です。他の製品につめかえても泡になりません。

本產品為「多芬潤澤柔嫩洗顔慕絲」專用補充包，請勿混用補充於其他

產品。

(筆者訳：この製品は「ダヴ クリーミー泡洗顔」専用です。他の製品につめかえないでください。)

(実例、下線筆者)

例(1)の日本語バージョン「変われば」は、中国語“若”(=“如果”)の直訳に由来する可能性のある誤用である。例(1)と例(2)はそれぞれ「値段が変わったら告知する」と「お茶を飲むと眠れなくなる」のような期待される論理を覆すため、テモを使用すべきである。しかしながら、この2例とも順接として理解されているようである。さらに、例(3)のようなテモの表現は、中国語に訳された際に、“即使～也～”のような表現ではなく、単刀直入に「他の製品につめかえないでください」と表現されていることから、翻訳にあたりテモの使用を理解しかねていることが推測され得る。

では、上記のようなテモの使用・不使用をどう考えればよいであろうか。誤用には複数の理由が可能性として考えられるが、本稿では、主に母語干渉の観点から探る。テモの原理自体を見直した上で、テモの理解上の困難点を検討することを目的とする。以下、まずテモの原理を見てゆく。

## 2 条件表現テモの原理の検討

前田(1993)は、条件表現テモの用法について、例(4)の「逆条件」、例(5)の「並列条件」、および例(6)の「並列・逆条件」の3つを挙げている。

- (4) 「このカメラ、水にぬれたら、こわれてしまいますか。」

「いいえ、防水ですから、ぬれても、こわれません。」 (前田1993:154)

- (5) 3を自乗すると(しても)9になるし、-3を自乗しても9になる。

(同上:154)

- (6) 結婚すれば悔恨あり、結婚しなくても悔恨あり。

(同上:156)

前田(1993)は、テモを「て形+モ」という構成と見ており、「並列条件」が本質の用法であり、「逆条件」が中心的な用法であると述べている。「逆条件」

といっても、実際には「並列条件」と同じ原理を持つものであり、「逆条件」と「並列条件」の間には「並列・逆条件」というものが存在する。例えば、例(4)のテモはいわゆる「逆条件」であるが、この発話は「水にぬれたらこわれます」という予測があり、その予測が誘導推論「水にぬれなければこわれません」(水にぬれない→こわれない)をもたらす。しかし実際は「水にぬれることはカメラをこわしません」(水にぬれる→こわれない)なので、正反対の前件が同じ結果に帰結することになるわけである。正反対の前件が例(6)のような「並列・逆条件」になる。すなわち、「水にぬれなければ」も「水にぬれたら」も「こわれない」という結果に帰結することから、条件を並列してモが使用されるのである。

ただし、本稿では、並列という言い方よりも、同じ結果の帰結(同じ後件)のほうがテモのモの役割の説明に適切であると考え。なぜなら、異なる後件の2つの順接条件文を並列する場合は、例えば「先生に聞けばわかる。先生に聞かなければわからない」のように、テモを用いないからである。

また、テモは「逆(接)条件」として説明されることがある一方、譲歩表現と呼ばれることもあるため、とりわけ逆接と譲歩の関係を検討する必要があると考える。加藤(2006)によると譲歩とは、「一般的な考えや念頭にある概念を後退させて別の可能性を検討する余地を作ることを意味する」(p.115)とされており、例として「これまで習ったことがなくても、この言語は簡単に習得できる」(p.115)が挙げられている。同書には「通常は「ある言語を習ったことがある」と習得しやすい」ものだが、「習ったことがある」という状況を後退させて「習ったことがない」状況についても検討し、同じように考えられることを」上記の例文が述べているとある(p.115)。また、「葉子の発言は的はずれでも、彼女の熱意は参加者に伝わった」を例として「確定事態にテモ・デモを使うと譲歩ではなく逆接の解釈になる」(p.116)ともあるため、譲歩と逆接の違いは仮定事態と確定事態の違いを指すように思われる。しかし、本稿の考えでは、譲歩とは、「ある条件の下で当然起こる事柄が、その条件が満たされない場合も起こる」ことであり、「条件が満たされる→事柄が起こる」も「条件が満たされない→事柄が起こる」も成り立つ。それに対して、逆接とは、「ある条件の下で起こるはずの事柄が起こらない」ことであり、「条件が満たされる

→事柄が起こる 事柄が起こらない」である。しかしながら、日本語の逆接条件の解釈には誘導推論が譲歩を導き出すことを含むため、逆接と譲歩が混同されやすいのである。例(4)で説明すれば、「水にぬれる→こわれる」という想定が「水にぬれない(正常に使う)→こわれない」という誘導推論を誘い出す(この誘導推論の内容は成り立つ)。しかし想定が成り立たないため「水にぬれる→~~こわれる~~ こわれない」(逆接)になり、ちょうど誘導推論「水にぬれない(正常に使う)→こわれない」に対しては譲歩になる。つまり、「水にぬれる→~~こわれる~~ こわれない」が「水にぬれる→こわれる」に対しての逆接であるのに対して、「水にぬれる→こわれない」は「正常に使う→こわれない」に対しての譲歩(もう1つの順接)である<sup>[註3]</sup>。なお、後者の前件同士はよく肯定と否定が逆になっているため、いわゆる「逆条件的」(前田1993)と言われることがあるが、実は前者のような逆接関係とは異なる(むしろ「譲歩的」と考えたほうがよいと思われる)。

さらに、もう1つ注意すべきなのは、例(5)のようないわゆる「並列条件」のテモは、例(4)と違って逆接とは言えないことである。前述のように、例(4)の「水にぬれる→~~こわれる~~ こわれない」が逆接である。それに対して、例(5)の後半部は本来2つ目の順接条件文「-3を自乗したら9になる」であり、前半部の順接条件文と同じ後件を持つためテモが使用されるのである。したがって、「-3を自乗しても9になる」のテモは、逆接ではなく順接であると考えられる。このことから、「テモは順接条件を表すこともある」ということを意味することになる<sup>[註4]</sup>。つまり、テモは文脈によって順接にも逆接にもなり得るのである。したがって、例(6)のようないわゆる「並列・逆条件」のテモは、本稿の考えでは、下線部のテモが順接になる。

上述のように、本稿なりに逆接と譲歩を検討したが、実際、日本語の表現形式として、逆接であれ譲歩であれ、あるいは順接の並列であれ、いずれもテモの形になっているため、順接/逆接/譲歩の判断はそれほど決定的にはならない。しかし、中国語の場合はどうであろうか。以下、まず中国語の複文の分類を説明した上で、日本語と対照しながら中国語の考え方を論述する。

### 3 中国語の考え方

#### 3.1 中国語の「假定複文」と「譲歩複文」

冒頭でも述べたように、中国語ではタラとテモを説明する際に、よくそれぞれ“如果～”と“即使～也～”を使用する。前者は“如果～就～”と示されることもある。中国語の複文の分類では、前者は「假定複文」（「仮設複句」の訳語、例えば、“如果明天下雨，我們就不去公園了”）、後者は「譲歩複文」（例えば、“即使下雨也去”）と呼ばれている（劉・潘・故1991）。“如果”と“即使”はそれぞれ「假定」と「假定兼譲歩／極端な状況」を表す接続詞であり（呂1999）、文の前件に付く。一方、副詞“就”と“也”は文の後件に付く。さらに、これらの接続詞と副詞は省略されたり使用されなかったりすることもある。

ところが、一般の使用においては、次の2例のように“如果～也～”という共起も観察される。実際この2例とも“如果”の代わりに“即使”を使用できる。一方で、日本語ではテモをタラで置き換えることはできない。

##### (7) 別被便宜核電綁架 讓低電價走向合理化

如果現在就廢核台灣也不會立即缺電 （“如果”の代わりに“即使”も可）  
（筆者訳：台湾では今すぐ原発を廃止しても、電力不足にならない。）

〈<http://www.businesstoday.com.tw/v1/content.aspx?a=W20110801273> 下線筆者〉

##### (8) 還本型健康險訴求期滿返還部分保費、不像一般健康險保費繳了、如果沒有理賠也不會返還保費。

（“如果”の代わりに“即使”も可）  
（筆者訳：コスト還元型健康保険は、保険料を支払うと補償がなくとも返還しないという一般の健康保険とは違って、期間終了後は部分的な保険料を返還する。）

〈<http://tw.news.yahoo.com/把握雙十原則-回歸需求-213000819.html> 下線筆者〉

実際、冒頭の例(1)は“即使～也～”を使用し“以上價格即使有變動、也不再另行通知”とも言えれば、“如果～也～”を使用し“以上價格如果有變動、也不再另行通知”とも言える。すなわち、中国語では日本語の逆接関係を“如

果～也～”でも“即使～也～”でも表現することが可能である<sup>[註5]</sup>。“如果～也～”も“即使～也～”も日本語の逆接関係を表現できることから、“也”が逆接表現に繋がることを意味すると言える。次に“也”の役割を考察する。

#### 3.2 条件表現の後件における“也”の役割

副詞“也”はどのように逆接表現に繋がるのであろうか。呂(1999)では、“也”の用法について、①2つの事柄が同じであることを表す、②仮定が成り立つかどうかに関わりなく結果が同じことを表す、③“甚至”（甚だしきは）の意味を表す、④婉曲を表すと挙げられている。その用法②の説明として、“你不說我也知道”（君が言わなくてもぼくは知っている）という例文を挙げている。この“也”は用法①から派生したものであり、発話の裏にある文を補うと、“(你説了我當然知道,)你不說我也知道”（君が言ったから当然わかっているが、君が言わなくてもぼくは知っていた）ということになるという<sup>[註6]</sup>。つまり、両文の後件が同じく「わかっている／知っている」という結果であるため、「同じである」を意味する“也”が使用されるのである。

このように、“也”が同じ後件の存在を暗示することによって逆接関係に繋がるのである。「同じ後件の存在を暗示する」というのは、例えば、例(7)と例(8)にはそれぞれ「原発を維持すれば、もちろん電力量が足りる」と「補償すれば、もちろん保険料を返還しない」という帰結が暗示的に存在しているということである。馬(1985)では、“也”は逆接を表すのではなく、“類同”（類似する／同じである）を表すと述べている。その原理は呂(1999)の用法②の説明に一致している。

以上に見た“如果～也～”や“即使～也～”の構文にある“也”の機能は、第2節で述べたテモの構造と用法を想起させる。テモのモの役割は、中国語の“也”の役割（同じ後件に帰結する）とかなり類似しているが、異なる点はモが前件に付き、“也”が後件に付くことである<sup>[註7]</sup>。両言語の構文は異なるが、“也”の使用がテモの原理に繋がると言える。

では、日中両言語ではテモと“也”が原理的に相通じるにもかかわらず、順接と逆接の判断にズレがあるのはなぜなのであろうか。以下、それについて考える。

### 3.3 中国語の考えで順接表現が使用しやすい理由

まず、注目に値するのは、中国語では“（你説了我當然知道、）你不説我也知道”（君が言ったから当然わかってはいるが、君が言わなくてもぼくは知っていた）というような解釈の仕方である。このような説明は、「你説了→我知道」と「你不説→我知道」の並列である。「你不説→我知道」は「你説了→我知道」に対しての譲歩であるが、「你不説」と「我知道」の関係は逆接ではなく（もう1つの）順接である。「你説了→我知道」を「覆す」（すなわち「你説了→我知道 我不知道」）というステップがないため、「逆接」ではない。

このようなプロセスを援用して例（1）の場面を考えると、中国語では、“（價格如果没有變動、当然不須通知）、價格如果有變動、也不再另行通知”（値段が変わらなければもちろん告知する必要がない。変わっても告知しない）という発話の論理が存在すると考えられる。それに対して、日本語では、「（値段が変われば告知すると思っているだろうが、そうではなくて）変わっても告知しない」という発話の論理が存在する（表1）。日本語の場合は、通常「値段が変われば告知するはず」という期待を「覆す」ため、「逆接」になるのである。

表1 例（1）に対する日中両言語の発話の論理

日本語	中国語
値段が変わる→告知する（期待）	價格没變動→不通知 順接
値段が変わる→告知する 告知しない 逆接	價格變動→不通知 順接

つまり、例（1）の場面においては、中国語では、ホテル側が客側の期待のようなものを考えずに、もし何らかの想定があっても、それは例えば「値段が変わらなければもちろん告知する必要がない」というようなものなのである。以上のことから、日本語では逆接のテモを使用する場面で、中国語の考えでは順接表現が使用されることが理解されよう。

ところが、3.1で述べたように、例（1）は“即使～也～”でも“如果～也～”でも使用できるが、原文では“若”（＝“如果”）だけが使用され、“也”が使用されていない。それはなぜなのであろうか。以下、まず“即使～也～”と“如果～也～”の使い分けを考えた上で、“也”の不使用の理由を論述する。

### 3.4 テモ文と“如果”／“即使”の対応関係

“即使～也～”と“如果～也～”の使い分けを考えることにあたって、日本語のテモ文との対応を見ることが有意義である。前述のように、“如果”と“即使”はそれぞれ「仮定」と「仮定兼譲歩／極端な状況」を表す接続詞である（呂1999）ことを知っていても、中国語の“仮定”と“譲歩”の違いは何か、極端な状況とは何かなど、テモと対照しなければ所詮日本語の応用に繋げないと思われる。では、日本語のテモ文と中国語の“如果”や“即使”との対応関係を知るために、テモ文の中国語訳文に“如果”か“即使”を入れてみることにする（紙面の節約のため、例をまとめて後ろに示す）。

例（9）は「停電であれば電気はつかない」と「電球がきれていれば電気はつかない」がそれぞれ成り立つことから、後半のテモ文は2つ目の条件文とされている（坂原1993）。停電と電球ぎれが各自独立した前件であるため、後半の「電球がきれていても電気はつかない」は逆接ではなく順接であり、テモを使う理由は先行条件文と同じ結果（後件）を持つことにある。この文を中国語で言うと、“如果”が適切であり、“即使”は不自然である。

例（10）は、「停電であれば電気はつかない」が成り立つが、停電という前提のない場合は「電球がきれていなければ電気はつかない」が成り立たないことから、「停電」と「電球がきれていない」は各自独立した前件同士ではないことがわかる<sup>[註8]</sup>。この例は「停電であれば、電球がきれていなくても、電気はつかない」とも言えることから、むしろ、「停電」が「電球がきれていなくても電気はつかない」の前提といったほうが良いと考えられる。この例では“即使”が適切であり、“如果”は不自然である。

例（11）は、「電球が割れていれば、電気はつかない」と「わずかのヒビが入っていれば電気はつかない」がそれぞれ成り立つが、2つ目の前件「わずかのヒビが入っている」が1つ目の前件「電球が割れている」の極端な状況として挙げられている。この例は「電球が割れていれば、それがわずかのヒビでも、電気はつかない」とも言えることから、「電球が割れている」が「わずかのヒビが入っている」の前提とも言え、この2つの前件は各自独立した前件ではないことがわかる。この例では、“即使”が適切であり、“如果”は不自然である。

- (9) 停電であれば、電気はつかない。電球がきれいでいても、電気はつかない。  
(坂原 1993: 199, 下線筆者)
- (9') 筆者訳：如果停電的話，燈就不會亮。如果（\*即使）燈泡壞了，燈也不會亮。
- (10) 停電であれば、電気はつかない。電球がきれいでなくても、電気はつかない。  
(同上: 199)
- (10') 筆者訳：如果停電的話，燈就不會亮。即使（\*如果）燈泡沒壞，燈也不會亮。
- (11) 電球が割れていれば、電気はつかない。わずかのヒビが入っていても、電気はつかない。  
(筆者作例)
- (11') 筆者訳：如果燈泡破了，燈就不會亮。即使（??如果）是一點裂痕，燈也不會亮。

ここまで見てきたように、2つの前件が例(9)のような各自独立した関係であるか、例(10)～(11)のような前提と譲歩の関係であるかによって、“如果”と“即使”の適切性に影響することがわかる。すなわち、2つ目の前件が1つ目の前件と各自独立した場合は“如果”を使用する。一方、1つ目の前件が2つ目の前件の前提、あるいは2つ目の前件が1つ目の前件の極端な状況である場合は、“即使”の適切性が高くなるのである。換言すると、“即使”の使用は極端な状況を想起させやすく、一方、“如果”の使用は中立的な仮定を表現するようになると考えられる。

さらに、これらのことを踏まえて、前述した例(6)「結婚すれば悔恨あり、結婚しなくても悔恨あり」の中国語を考えてみる。例(6)を中国語に翻訳すると、“如果結婚、會後悔。如果（即使）不結婚，也會後悔”のように、“如果”も“即使”も使用できる。“如果”を使用する場合は、「結婚する」と「結婚しない」は各自独立の選択肢であり、評価の良し悪しはない。そのため、比較的等しく「二者択一」という中立的な話者の態度が現れる。一方、“即使”を使用する場合は、「結婚する」が優先的な選択、それより一歩さがって「結婚しない」が副次的な選択、という話者の態度が現れると考えられる。

### 3.5 “即使～也～”／“如果～也～”／“如果～”の選択

前述のように、“如果”か“即使”の使用によって、ニュアンスの相違が生じる。このことを踏まえて、冒頭の例(1)の表現のニュアンスを検討する。

例(1)の場面は“即使～也～”を使用すれば、“即使”が「極端な状況」を意味するため、価格変動を「最も告知すべき状況」として想起させやすくなり、「価格変動の場合さえ知らせないよ」というような無愛想なニュアンスになってしまうのである。一方、もし、“如果～也～”を使用すれば、比較的中立的にホテルのルールを伝えるように聞き手に受け取られる効果がある。「値段の変更は他の項目の変更よりも重大なことであるはずだから、最も告知すべき状況である。それにもかかわらず、あえて告知しないことにするのなら、値段の変更はそれ程極端な状況ではないようにしておく」という心理が働いているのだろうと考えられる。

さらに、例(1)の中国語原文“以上價格若有變動、恕不再另行通知”の中に“也”が使用されていない理由を考える<sup>[RE9]</sup>。前述のように、“也”の使用は同じ後件の存在を表す。そのため、“也”を使用しないことで、同じ後件の存在が暗示されなくなる。もし“也”を使用すれば、「価格が変わらなければ、もちろん告知しない」という同じ後件の存在を想起させやすくなるため、結局「変わっても変わらなくても、どうせ告知しない」という無愛想なニュアンスが伝わってしまう恐れがあるのである。したがって、例(1)の中国語原文は、“即使”を使用しないだけでなく、“也”も使用しないのである。このように、中国語では、無愛想なニュアンスを避けようとする語用的な配慮によって“即使～也～”のかわりに“如果～也～”を使用し、さらに“如果～”だけを使用することがあると考えられる。

### 3.6 疑問文の場合

“即使”の不使用と“也”の不使用は、冒頭の例(2)のように相手に質問する疑問文の場合は、ともに機能しやすくと考えられる。例(2)の文脈では、もし“即使”を使用したら、ニュアンスが強すぎて詰問のように聞こえてしま

う。なぜなら、“即使”の使用が両者択一疑問文ではなく、先行的に想定されている論理関係を確認する疑問文として受け取られる傾向があるためである。“也”の使用もその効果がある。

例(2)は中国語で“睡得著”(眠れる)と質問しているが、実際“睡不睡得著”(眠れるか眠れないか)というように相手に自由に返答を任せる選択疑問文でもある。このような質問法は、“即使現在喝茶、晚上也睡得著嗎?”(お茶を飲んでも、眠れるのですか)という発話より、話し手が聞き手に予想されていない返答の空間を提供しているため、比較的婉曲的に聞こえると考えられる。すなわち、「今お茶を飲んだら、今夜はどうですか。眠れますか。眠れませんか」という質問の心理が働いていると考えられる。

以上、日本語のテモとの対照の観点から、中国語の相関構文とその発想を検討した。以下、表1で示した日中両言語の違いを意識した上で、冒頭の例(3)のテモを考える。

## 4 逆接のテモの裏にある「期待の内容」

通常、教科書における逆接のテモの説明としては、ある条件の下で、当然起こると期待される事柄が起こらないと述べるだけの場合が多い。その「期待の内容」には1つの順接条件表現のみが含まれる。例えば、例(1)~(2)や例(4)は、それぞれ「値段が変われば告知する」、「お茶を飲むと眠れない」、「水にぬれたらこわれる」である。これらの期待を覆す(逆接)にはテモを使用する。

しかし、例(3)のような用例では、「期待の内容」について、さらに検討する必要がある。例(1)~(2)や例(4)と異なり、例(3)のようなテモ文の裏にある期待の内容は順接のテモも含んでいると考えることができる。一般の逆接テモ文(例(1)~(2)や例(4)など)の裏にある期待の内容にはテモが含まれないが、例(3)の期待の内容には「本来の製品につめかえたらもちろん泡になる。他の製品につめかえても泡になる」というように、期待の内容には順接のテモが含まれる。このような2種類の逆接テモ文の原理をまとめると表2になる。教科書で導入するのはAタイプにとどまるようであるが、実際Bタイプも存在する。

表2 期待の内容から見た逆接テモ文の分類

Aタイプ(例(1)・例(2)・例(4))	Bタイプ(例(3)・例(12))
期待 <del>雨</del> → 出掛けない	本来の容器 → 泡になる
↓ (覆す)	期待 <del>他の容器</del> → 泡になる
雨 → 出掛けない 出掛ける	↓ (覆す)
	他の容器 → 泡になる 泡にならない

ところが、例(3)と類似した次の例(12)のような場面では、必ずテモを使用するというわけではない。次の2例を対照して見てもらいたい。

- (12) (泡で出る洗顔料の詰め替え用に)  
 スキンライフ泡のふんわり洗顔専用です。他の容器につめかえても泡になりません。  
 (実例、下線筆者)
- (13) (泡で出る洗顔料の詰め替え用に)  
 スキンライフ薬用泡のふんわり洗顔専用です。他の容器では泡にならないことがあります。  
 (筆者訳：これはSkinlife薬用泡沫洗顔慕絲専用補充包。如果補充於其他容器、可能会有無法起泡的情形。)

この2例は同じ場面であるにもかかわらず、例(12)のような逆接のテモでも、例(13)のような順接のテモでも表現できる。これについてどう考えればよいのであろうか。有田(2011)は、「そんなこと言われても困る」と「そんなこと言われると困る」の違いを次のように説明している。すなわち、前者は、話し手が「そんなことを言う」が成立した場合に当然期待されることができないために「困る」と述べている。一方、後者は、話し手がそんなことを言われれば困るのは当然だと考えている(p.135)。この対比を援用して例(12)と例(13)を説明すれば、すなわち、例(12)はその発話の裏に「順接のテモが含まれる期待」が存在するが、例(13)はそのような期待がなく、単に「もしこうだったらこうなる」という注意書きだけなのである。このような違いによって、ニュアンスも変わる。このことを原理的に言えば、テモイイカに対する否

定の答えはテハイケナイでもテモシカタガナイでも可能であるが、ニュアンスが異なることと同じであると考えられる。藤井 (2002) は、「徹夜で勉強しても、試験に合格しないよ」と「徹夜で勉強したら、試験に合格しないよ」を挙げ、前者はどうしても合格できないという意味を表し、後者は徹夜で勉強することがかえって合格しない結果をもたらすという意味を表すと述べている。この意味上の対比を援用して本稿の用例を考えると、次のようになる。すなわち、順接表現を使用する場合 (例 (13)) は、前件が積極的に後件をもたらすことを表す。それに対して、逆接のテモを使用する場合 (例 (3) と例 (12)) は、前件が積極的に後件をもたらすというわけではなく、ただ後件に「泡にならない」という本来の目的が成就しそうにないことを言うだけである (成就の見込みはない)。このことは、例 (12) の前件「他の容器につめかえても」が「ポンプが押せなくなる」というような後件とは相性が悪い (?:他の容器につめかえても、ポンプが押せなくなる) ことからもうかがえる。つまり、逆接のテモは「相手の期待」に成就する見込みがないという事実だけを言っており、「お客様はもしかして他の容器を使ってもいいと思っているかもしれないが、あいにく他の容器につめかえても本来の目的が成就しそうにない (しょうがない) よ」というニュアンスを表しているのである<sup>[註10]</sup>。

なお、本稿の冒頭でも述べたように、このようなテモは中国語の言語感覚ではどうも落ち着かないように思われる。例えば、例 (3) や例 (12) は“即使～也～”を使用し“即使補充於其他容器、也無法起泡”と標識すると、他の容器に詰め替えたという極端な客の行動をからかうように聞こえてくる (“如果～也～”を使用してもその効果がある)。あえて中国語でその旨を表現するのなら、例 (3) の中国語の説明のような禁止表現を使ったり、次の例 (15) (例 (14) の類似商品。例 (15) は例 (14) の中国語訳と見ていい) のように“即使～也～”や“如果～也～”ではなく“如果”だけを使ったりしている。

(14) (泡で出る洗顔料の瓶に)

『ピオレマシュマロホイップ』以外の商品をつめると、泡にならない・ポンプが押せなくなります。 (実例、下線筆者)

(15) (泡で出るハンドソープの瓶に)

如果在瓶中注入Biore抗菌洗手慕絲以外的產品，可能導致無法起泡或是按壓頭無法按壓的情形。 (実例、下線筆者)

では、なぜ中国語では“如果～”だけが使用されるのであろうか。表1でも示したように、中国語では「相手の期待」というようなことを考えなくてもよいため、単に「ある行為をしたら、不都合なことをもたらす」ことを表す“如果～”で表現されるのである。

## 5 まとめと今後の課題

本稿では、中国語母語話者のテモの不使用について、実際の事例を観察しながら、テモの原理自体を見直し、また、テモの理解上の困難点を検討した。日本語は前件に付くテモによって同じ後件を表すが、中国語はそれを後件に付く“也”によって表す。日中両言語の構文は異なるが、“也”の使用がテモの原理に繋がると言える。しかしその一方、中国語では、“也”を使用しないこともあるため、テモの不使用に関する盲点となりうる。また、中国語母語話者にとっては、日本語のテモの裏にある「期待の内容」を想定することに馴染みがない上、さらに期待の内容にテモが含まれる状況に出会った際に、いわゆる順接と逆接の判断は必ずしも容易とは言えない。

有田 (2006) は、「日本語の仮定譲歩文を表す形式として「ても」がある。一方、英語では‘even if’ではなく‘if’単独でも仮定譲歩的表現になる」(p.12)と述べており、「日本語は前件と後件が依存関係にあることに加え、その依存関係が社会通念や期待等の話し手の暗黙の前提に合致しているか否かに敏感な言語である (…中略…) 一方、英語においては、話し手の前提が成立する関係か否かは言語形式ではなく文脈にゆだねられる。暗黙の前提の成立・不成立を言語化する傾向にある言語か、文脈に依存する傾向にある言語か、という点も、条件文の対照研究をする上で興味深い観点である」(pp.12-13)と指摘している。中国語は“也”の機能を通して、ある程度「暗黙の前提の成立・不成立を言語化する傾向」があるため、英語ほど「文脈に依存する傾向」が強くないが、“即

使”や“也”の不使用もあるため、日本語より「文脈に依存する傾向」にある言語のように見えるのではないだろうか。

中国語の“也”の文中位置が日本語のモと異なることがあるということと関連するかもしれないが、「母は料理をするときは、いつも台所の電気をつけます。うちの台所は昼間でも(??も)少し暗いので」という文では、日本語で条件表現を使用したほうが自然であるが、中国語の言語感覚ではモでも自然に使用できそうである。このようなモとデモの使い分けを今後の課題の1つとする<sup>[注11]</sup>。また、「捨てるんなら、くれても(たら)いいんじゃない？」という文では、タライイとテモイイの使い分けがあるのかについても、今後の課題とする<sup>[注12]</sup>。

〈慈済大学 [台湾]〉

#### 付記

本論文を書ききっかけは2007年に白川博之先生からいただいた、誤用例についての質問である。この問題を考える機会をくださった白川先生に心から御礼申し上げます。また、2012年日本語教育国際研究大会で発表した際にご指摘をくださった先生方と査読の先生方にも御礼申し上げます。本論文に何か間違いや不備があれば、全て筆者の責任である。

#### 注

- [注1] …… 本稿では、各順接条件の相違を考察の対象としないため、タラ／バ／トのいずれも他の順接条件を含めることがある。
- [注2] …… “要是”は“如果”と同じ意味である。“～的話”も仮定の意味を表している。これらの例文と中国語訳、およびその説明は『大家的日本語初級Ⅰ・Ⅱ 文法解説・課文中譯・問題解答』(1999)と『大家的日本語初級Ⅰ・Ⅱ 教師用指導書』(2000)による。
- [注3] …… 順接条件文「PナラバQ」に対して、一般に「Pテモ～Q」も「～PテモQ」も譲歩文と言われる(例えば小泉(1987)など)。しかし、「起こると期待される事柄が起こらない」ことは「Pテモ～Q」であって「～PテモQ」ではない。したがって、「Pテモ～Q」は逆接であり、「～PテモQ」は(もう1つの)順接であると考えられる。
- [注4] …… 坂原(1993)も「pでもq」は、条件文と解釈しなければならないときもある」と述べている。注8を参照。

- [注5] …… 本稿で扱われる“如果～也～”という構文は、“A: 如果我去的話、你去不去? B: 如果你去的話、我也去”(A: 私が行くなら、あなたは どうする。B: あなたが行くなら、私も行く)のような“如果～也～”とは異なる。この種類の“如果～也～”を日本語にする場合は、モが後件に付く。
- [注6] …… 日本語訳は呂(1999)による。筆者の考えでは、「君が言えば当然わかるが、君が言わなくてもぼくは知っている」という訳のほうがふさわしいと思われる。
- [注7] …… このような両言語の構文による相違点が、次のような誤用例aの現れに影響する可能性があるのではないであろうか。  
(例a) また、歴史的な面からみれば(→見ても)、その傾向も→(が)ある。  
(ホンコン) (市川1997:210)
- [注8] …… 坂原(1993)は、例(9)と例(10)を挙げて、例(9)のテモ文は譲歩文と区別して「条件文と解釈しなければならない」と述べている。一方、例(10)のテモ文は「常識的に「電球がきれていない」は、「電気がつく」という事態を予想させる」ため、「譲歩文と解釈される」と述べている(p.199)。ただ、譲歩と逆接の関係については直接説明されていない。
- [注9] …… 例(1)の中国語原文“恕”は、「許す」という意味である。すなわち、「別に告知しないことをお許しください/ご了承ください」という意味である。
- [注10] …… 次の例bについても同じ原理が働くと考えられる。期待の内容には「予約すればもちろん泊まれる。直接行っても泊まれる」というように順接のテモが存在する。その期待の内容を覆すには、逆接のテモを使用し「直接行っても泊まれると思っているだろうが、その期待は間違っており、急に行っても目的が成就しそうにない(しょうがない)よ」というニュアンスを表すのであろう。  
(例b) A: あの旅館は急に行ってもとまれないらしいですよ。  
B: つまり、予約しなければならぬということですね。  
(『テーマ別中級から学ぶ日本語』より、下線筆者)
- [注11] …… この例文は『日本語のぶんぼう』(2009)より引用した。
- [注12] …… この例文は『新日本語能力試験N3聴解対策&模擬試題』(2010)より引用した。

#### 参考文献

- 有田節子(2006)「条件表現研究の導入」益岡隆志(編)『条件表現の対照』pp.3-28. くらしお出版
- 有田節子(2011)「書評論文 前田直子著『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究』」『日本語文法』11(2), pp.128-136. 日本語文法学会
- 市川保子(1997)『日本語誤用例文小辞典』凡人社
- 加藤重広(2006)『日本語文法入門ハンドブック』研究社
- 小泉保(1987)「譲歩文について」『言語研究』91, pp.1-14. 日本言語学会
- 坂原茂(1993)「条件文の語用論」益岡隆志(編)『日本語の条件表現』pp.185-201. くら

#### しお出版

- 白川博之 (2012) 「文法との上手なつきあい方—文法が苦手な人／得意だけど使えない人のために」 慈済大学東方語文学系講演レジュメ
- 馬真 (1985) 「説“也”」 陸儉明・馬真 (編) 『現代漢語虚詞散論』 pp.25-37. 北京大学出版社
- 藤井聖子 (2002) 「所謂「逆条件」のカテゴリ化をめぐる—日本語と英語の分析から」 生越直樹 (編) 『シリーズ言語科学4 対照言語学』 pp.249-280. 東京大学出版社
- 前田直子 (1993) 「逆接条件文「～テモ」をめぐる」 益岡隆志 (編) 『日本語の条件表現』 pp.149-167. くろしお出版
- 劉月華・潘文娛・故韓 (1991) 『現代中国語文法総覧 (下)』 (相原茂 (監訳) 片山博美・守屋宏則・平井和之 (訳)) くろしお出版
- 呂叔湘 (1999) 『中国語用例辞典 (現代漢語八百詞日本語版)』 (牛島徳次 (監訳) 菱沼透 (訳)) 東方書店

#### 用例出典

- 『新日本語能力試験N3聴解対策&模擬試題』 (2010) 致良出版社
- 『大家的日本語初級 I・II 教師用指導書』 (2000) 大新書局
- 『大家的日本語初級 I・II 文法解説・課文中譯・問題解答』 (1999) 大新書局
- 『テーマ別中級から学ぶ日本語』 (2008) 尚昂文化
- 『日本語のぶんぼう』 (2009) 尚昂文化
- <http://www.businessstoday.com.tw/v1/content.aspx?a=W20110801273> (『今周刊763期』 見出し 2012年2月18日参照)
- <http://www.taichung-plaza.com/tw/03room.htm> (2012年8月14日参照)
- <http://tw.news.yahoo.com/把握雙十原則-回歸需求-213000819.html> (2012年8月5日参照)